

S-1

地域コミュニティと取り組む奄美大島方言のデータ収集・公開

重野裕美（広島経済大学）

白田理人（広島大学）

shigenohrm.58@gmail.com

rshirata@hiroshima-u.ac.jp

1. 活動の背景

奄美大島方言は、琉球諸語の他の地域変種と同様、現代日本語共通語への言語推移が進行している。（いわゆる）伝統方言の話者の高齢化が進み、地域コミュニティが徐々に崩壊していく中、詳細かつ総合的な記述研究を行うには今が最後の機会となっており、資料収集・調査が喫緊の課題である。これまで、登壇者を含め、研究者が方言の記録活動を行ってきた一方で、地域コミュニティの中でも方言の記録・保存のための取り組みがみられた。地域コミュニティの側から、このような取り組みに際して専門的な知識・技能のニーズがあったものの、研究者との連携は僅少であった。

2. 活動内容

2020年に「シマユムタ伝える会」（奄美群島出身の方言話者から構成され、地域で方言の保存・継承活動を実施している団体）から、登壇者らへ方言の記録・保存活動への協力要請があった。「シマユムタ伝える会」は、コミュニティFMラジオ「あまみエフエム ディ!ウェイヴ!」において、方言を用いた番組を配信していたが、さらに「方言を残す」活動として何ができるかを模索していた。登壇者は、言語の記録におけるボアズの3点セット（辞書・文法・テキスト）を念頭におき、協働の手始めとして、①基礎的な語彙（及びその例文）を録音すること、②ラジオ番組での「シマユムタ伝える会」による方言会話の音声を書き起こし、言語データとして整備すること、③上記①・②の資料をホームページ等で公開することを提案した（その後、①に短い会話例文の録音を追加した）。

こうして、登壇者は「シマユムタ伝える会」・「あまみエフエム ディ!ウェイヴ!」との協働による言語記録活動を開始した。主な役割分担として、登壇者は調査機材の提供・調査票（予想形式を含む）の作成・調査方法の指導及びサポート・録音データの整理及び書き起こし、「シマユムタ伝える会」はメンバー間での調査の実施及び登壇者へ音声の提供、「あまみエフエム ディ!ウェイヴ!」はラジオ音声の整理及び登壇者への提供を行っている。なお、この活動は、「地域コミュニティと取り組む奄美大島方言の基礎語彙・談話データの収集・公開」というプロジェクトとして、2021年度及び2022年度の日本言語学会「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト」の助成を受けている。

3. 活動の位置づけと今後の展開

上記の活動は、地域コミュニティが主体的に方言の記録・保存活動に参加する点が特色である。地域コミュニティとしては、研究者から専門的知識や技能及び録音調査機材のサポートを受けることで、方言の記録活動に取り組むことが容易になる。研究者側としては、地域コミュニティの一員である伝統方言話者自身が調査者となることで、調査協力者である方言話者との信頼関係を円滑に築くことができるとともに、伝統方言及び伝統文化（特に生活様式）の知識・経験を活かしてより詳細な調査が可能となる。一方で、機材の操作に関する指導や新たな調査者の育成に関しては課題が残る。また、文法事項に関する調査・記録活動にどのように取り組むかも課題である。

今後は、「シマユムタ伝える会」及び「あまみエフエム ディ!ウェイヴ!」からの要望・助言を踏まえ、また、登壇者（重野）の研究者としての視点及び地域コミュニティ出身者としての視点を活かして、データの公開活動に取り組んでいく予定である。